

## ポイント

### **Trends & Forecast**

半導体市場は17年に続いて18年も好調で2年間に亘り好調を持続、メモリ、マイクロ(MPU)など出荷金額で史上最高を更新する。しかし、足元は、ピークを越したとみられ、メモリでの二大製品のDRAMは供給が正常化、もう一方のNANDは競争が激化しており、メモリ全体では、これまでの高成長から減速に移行する。ただし、18年中は市場崩壊の可能性は少なく、19年には中国メモリ会社の新規参入などから競争は激化するとみられる。

### **Trade & Asian Dynamics**

米中貿易戦争が激化。今後は具体的な影響が、貿易や市況に反映されるとみられる。紛争を影響を軽減するため、中国から東南アジア諸国への生産移管が増大するとみられ、関連諸国は、成長が上乘せされよう。また、新たな関税の適用、対象品目の定義区分など煩雑な手続きから通関業務が停滞する懸念があり、企業活動への影響を抑えることが望まれる。

### **Company & Competitiveness**

世界の主要半導体企業40社の18年第2四半期業績は総計で売上が前の四半期から4.9%、前年同期比では20.1%それぞれ増加した。利益は同じ比較で5.4%および33.4%増、利益率は33.4%と絶好調を持続した。ただし利益面では大手のサムスン電子(ドルベース)およびTSMCが前四半期比で減益になるなど、変化が出て来た。全体では売上のピークは第3四半期、利益のピークは第2四半期となった可能性が高い。

### **Market & End user**

スマートフォン(スマホ)市場の成長が鈍化、成熟化しており「ポスト・スマホ」が脚光を浴びそう。モノのインターネットといわれるIoT、電気自動車(EV)、ロボット等産業用機器など、有望とみられる分野が控えている。焦点は、立ち上がり期特有の細かく分散し手間がかかる市場で、売上を寄せ集めて利益を確保するか。いかに効率的に開拓・販売できる大市場へ育成するか、過渡期での活動を通じた戦略の確保が重要とみられる。

### **Conclusion**

二年間にわたる半導体ブームは、終焉の兆候が増え、市況は転換点を越えたとみられる。今までの好調の反動から、減速感がより増幅され、人為的な災難をもたらすことが過去にみられた。正確に情勢を判断し、冷静な対処が必要だろう。

## 主な内容

- ・ NANDとDRAM世界出荷の増減推移 実績と予測
- ・ 世界の主要半導体企業40社/ファウンドリ3社、18年第2四半期業績集計(売上/利益額/利益率/売上伸び率それぞれ上位25社)
- ・ 世界主要半導体/ファウンドリ企業の売上、利益の長期傾向
- ・ 半導体の需要分野の国内生産推移と18年予想
- ・ 予測結果

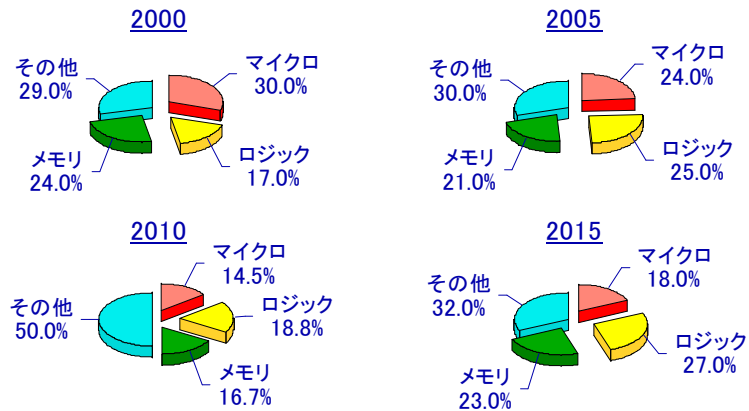
3ページ目に予測の主要指標、最終ページに定義を掲載しております

文字の色が赤い部分をクリックして右クリックしてリンクを開くと対応したページに移動します

# 予測の主要指標について

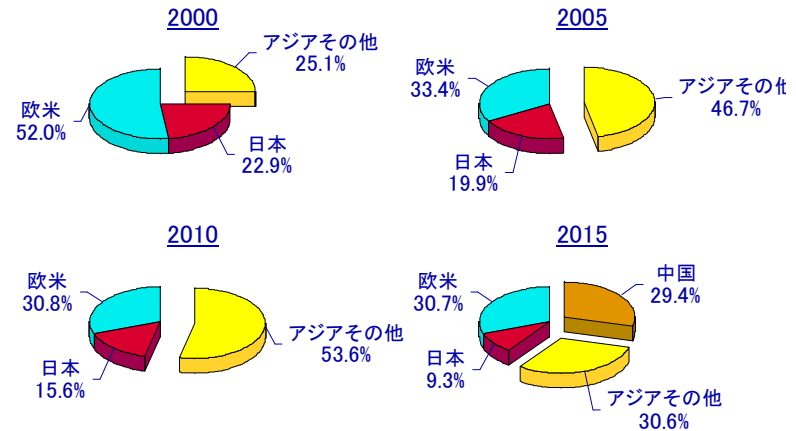
以下の4点の図は、本誌の分析、予測の基本的な要素を示している。長期的な視点での変化とその要因、それを踏まえての短期的な傾向と新たな変化を捉えようとしている。

世界半導体出荷での主要製品別比率



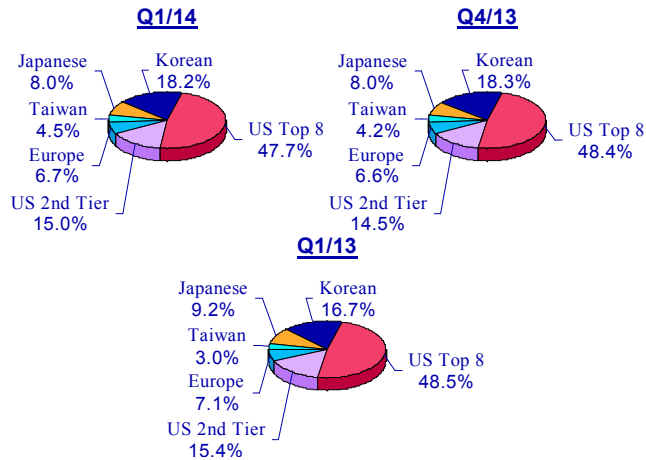
主要製品では、変動が比較的に大きいマイクロ、メモリを重点にしている。最近では、ロジックが増加していることから予測に反映させる予定

世界市場での日本、アジアの比率

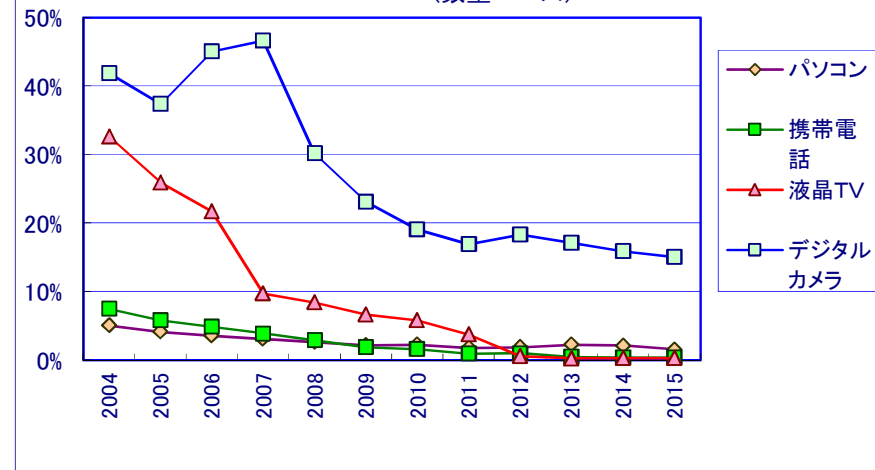


地域では、日本およびアジア市場の動向に重点を置いている。

世界の46半導体企業の2014年第1四半期売上シェア  
ファウンドリ会社を除く



国内生産の世界シェア  
(数量ベース)



# SRL Quarterly Forecast

## 予測手法について

予測は、10年間あるいは20年間のデータベースを基本にした長期傾向、季節変動に代表される短期傾向、それからいくつかの先行指標を用いた方法を混在させて行っております。この方法は半導体産業の規模が大きくなり、かつ信頼される統計その他の情報の蓄積が進むほど予測精度は高まります。ただし、既存の傾向に含まれない突発的な出来事(戦争、地震等)が発生した場合を除きます。傾向と先行指標から判断する方法は、もう一方の代表的な予測方法であります市場関係者への聞き取りやアンケート集計と異なり、人為的にもたらされる過剰な期待やその逆の過度な弱さを排除できる特徴があります。本誌では、図を多様して予測説明を行っておりますので、傾向や転換点が容易に理解できます。

この資料の複写、複製その他電子的な方法等によるいかなる形での複写利用をお断りします。  
この資料は公開されている文書および、社会的に信用ある企業、団体等の責任者によって公開された情報を半導体総合研究所の解釈と分析で表現したものです。  
2018年 著作権所有 SRL (半導体総合研究所)

## 定義と説明

- 1) 国内統計: 生産は経済産業省機械統計で、最新値は速報値。輸出、輸入は財務省通関統計を使用。生産は社内使用や自社目的のみに生産された分を含む。輸出はFOB(輸出港渡し条件)、輸入はCIF(運賃保険料込港渡し条件)、非実装品は輸出、輸入に含まず、「非実装輸出」で別個に扱う。  
図中、「消費は調整前」とあるのは、推定消費: 生産-輸出+輸入で計算。この計算式では在庫の増減で消費される時期が前後するが、調整前の場合は、上記計算を適用。
- 2) 国際統計: 世界半導体市場統計(WSTS=World Semiconductor Trade Statistics), 米半導体工業会(Semiconductor Industry Association)  
韓国税関サービス(Korea Customs Service), 台湾(Taiwan Directorate General of Customs), 中国税関(China Customs), 香港政府統計處(Hong Kong Census and Statistics Department)など。関税分類の個別半導体およびオプト製品(8541-XX-XXX)、集積回路(8542-XX-XXX)で定義された全ての半導体の貿易額を使用している。これらのなかには処理済ウエハーや部分品も含まれ、要するに半導体全体である(本誌の半導体貿易は原則完成品を対象とし、それ以外の場合は定義をその都度説明している)。
- 3) 企業情報: 原則として企業が外部に公表した決算資料の数字を利用している。日系企業では、営業利益を公開しない例もあるが、その場合は本誌の推定値を使用している

2018年9月 (年4回発行) 第27巻3号 (通巻107号)  
発行元 /株式会社SRL  
〒188-0014 東京都西東京市芝久保町 3-1-35  
TEL 042(439)5317 042(439) 5023  
編集・発行人: 大竹 修

SRL Quarterly Forecast September 2018, No. 107  
Semicon Research Ltd. [www.semiconresearch.co.jp](http://www.semiconresearch.co.jp) [info@semiconresearch.co.jp](mailto:info@semiconresearch.co.jp)  
3-1-35 Shibakubocho Nishitokyo-City,  
Tokyo 188-0014 Japan  
Publisher/Editor : Osamu Ohtake

© SRL 2018

購読料金1年分(4号) 60,000円(税別)